



主 題 名 おとなりの国、韓国・朝鮮を知ろう

教 材 名 サムルノリ

人権学習の視点 個別的な視点「外国人の人権問題」

主題・教材について

京都府に住む在日外国人の約3人に2人が韓国・朝鮮籍の人である（H16年末：法務省）。日本とは関わりの深い韓国・朝鮮ではあるが、その歴史や文化については知らないことが多い。ここでは、平成19年度の「まいづる・田辺城まつり」の様子や、その中で行われたサムルノリの演奏をきっかけに韓国・朝鮮のことについて考える機会としたい。そして、社会科で歴史的な関係を学ぶ前段階として、調べる学習を通して、お互いの文化や生活の共通点と相違点を見つけることによって、理解しあっていくことの大切さをとらえさせたい。

*「外国人の人権問題」については、平成19年3月発行「人権学習資料集」〈小学校編Ⅱ〉の指導の手引き（63ページ）も参考資料として活用できる

ね ら い

国を越えて、お互いの違いを認め、異なる文化や考え方を尊重し合うことの大切さを理解する。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具	
導 入	○本時の学習課題について知らせる。	一斉	○本時の学習課題について知る。			
	韓国・朝鮮について知っていることを交流しよう					
展 開	○韓国・朝鮮について知っていることを発表させる。	一斉	○韓国・朝鮮について知っていることを発表する。	○地域性に配慮しながら、児童の知っていることを取り上げる。 ○韓国・朝鮮が日本に一番近い外国であることを知らせる。	資料 「サムルノリ」 DVD 写真	
	○資料「サムルノリ」を読み聞かせる。 ○DVDを視聴して「まいづる・田辺城まつり」の様子を知らせる。	一斉	○「まいづる・田辺城まつり」の様子やサムルノリの演奏について知る。	○DVDや写真から、祭りの行列の様子やサムルノリ・楽器の音色等を知り、具体的にイメージが描けるようにする。 ○4つの楽器を使って、ステージで演奏しているのが「サムルノリ」である。		
	【DVDの内容】*「まいづる・田辺城祭り」の行列の様子<1分40秒> ①朝鮮王朝時代の衣装 ②楽器（チン・ブク・チャンゴ・ケンガリ）を演奏					
開	サムルノリの演奏者や行列の人々の思いについて考えよう					
	○「サムルノリ」を演奏したり、行列に参加したりした人々の思いを想像させる。	一斉	○日本に住む韓国人の人々の思いについて考え、発表する。	○担任の先生の話（P.59）やDVD等を手がかりに、国を越えてもっとふれあいたいという願いに気付かせる。		
ま と め	おとなりの国、韓国・朝鮮のことを調べよう					
	○資料（P.58～62）から、日本と韓国・朝鮮の共通点や相違点について考えさせる。	個別 一斉	○日本と韓国・朝鮮の共通点や相違点をワークシートに書き発表する。	○学級の実態によっては、この資料からだけでなく、他教科や地域と関連させた調べる学習を取り入れる展開も考えられる。	ワークシート 問1	
	○本時のまとめをする。	個別 一斉	○いろいろな国とつながるために大切なことを考え、ワークシートに書き発表する。	○互いの歴史や風土の違いから共通点や相違点があることを理解し、それを認め合うことの大切さに気付かせる。	ワークシート 問2	



評 価

国を越えて、お互いの違いを認め、異なる文化や考え方を尊重し合うことの大切さを理解できたか。